

TruPhase の活用(10)  
—音源の位相確認(10)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(9)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase  
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、[音源の位相チェック実験\(24\)](#)で使用したバッハの作品で下記のとおりです。

ARCIV POCA-3032

J.S.Bach カンタータ第 80 番我が神は堅き砦 BWV80

カンタータ第 106 番神の時こそ良き時 BWV106

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

ポリドール F35L-50510

J.S.Bach カンタータ第 140 番目覚めよと我らに呼ばれる物見らの声 BWV140

カンタータ第 51 番全地よ神に向かいて歓呼せよ BWV51

ジョシュワ・リフキン指揮バッハアンサンブル

さらに下記を追加します。

エラート WPCS-4838/40

J.S.Bach カンタータ全集第 2 巻

トン・コープマン指揮アムステルダムバロック管弦楽団

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無し

で聴いていきます。

リヒター盤は、位相反転させますと、定位がしっかりして歌手の位置も明瞭になり、通奏低音も明瞭で、古い録音ながら意外にフレッシュな印象です。位相反転させないと歌手の位置が不明瞭で定位が曖昧です。

リフキン盤は、位相反転させますと、定位が曖昧になり、歌手の位置が不明瞭になります。位相反転させないと歌手の位置がしっかり定位し、楽器の音の焦点があってきます。この結果は、音源の位相チェック実験(24)と逆の結果となりましたが、1987年のデジタル録音とありますので、今回の結果が正しいと思われます。

コープマン盤は、位相反転させますと、歌手の位置が不明瞭になり、合唱の分離もよくありません。位相反転させないと歌手の位置がしっかり定位し、合唱の分離もよく、間接音が豊かで通奏低音も明瞭です。

#### 4. まとめ

**TruPhase** での位相反転と **Brooklyn DAC+**での位相反転の結果は、リヒター盤は、音源の位相チェック実験(24)と同様の傾向になり、リフキン盤は、音源の位相チェック実験(24)と逆の結果となりました。また、トン・コープマン指揮阿姆斯特ダムバロック管弦楽団のカウンタータ全集第2巻は、正相であることが分りました。

以上